

学び・創り・伝える ～なくてはならない存在であれ～

はじめに

どのようなまちに暮らしたいですか。
どのようなまちを子や孫、その次の世代に残していきたいですか。
どのようなひとになっていきたいですか。
どのような組織で活動がしたいですか。

混沌とした世の中だからこそ今一度、自分自身に問いかけてみてください。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、我々も含め世の中の人々は社会をより良くするための議論を重ねてきました。まち、ひと、組織の在り方が問われ、働き方やひととの接し方にも変化が生まれ、人類は対応力、適応能力の高さを発揮してきました。過去に類を見ないスピードで我々を取り巻く環境は大きく変化し、今もなお変わっていきつづけています。まちや市民は、パンデミックにより起きた変化から生まれるビジネスチャンスや、社会の変化を発展と成長の機会として捉え、挑戦を続けています。一方で、これまで当たり前とされていた価値や文化が議論の余地もなく失われている側面もあります。JCI福山は、諸先輩方が築かれてきたように、多くの人々が幸せとなる仕組みを構築し続けていかなければなりません。何故か。私たちは「明るい豊かな社会」を実現しないといけないからです。しかし、仕組みを創り出し続けることは決して容易なことではありません。一人ひとりがまちをより良くしたいと覚悟を持って取り組んでいくことが求められています。日々刻々と変化する時代の中で起こる社会課題に対し、まちに住み暮らす一人の市民として立ち向かうためにも過去を学ぶことはとても重要な要素です。過去を学び、今を考えるからこそ未来を変えていく仕組みは創り出されるのです。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナへの侵攻が長期化しているなど今も無益な争いが絶えません。我々の起こす運動はその争いの全てを止めることがすぐには出来ないかもしれませんが、しかし、行動を起こさなければ、挑戦をし続けなければ現状を打破するきっかけも起こせません。だからこそ、我々は運動を起こすのです。我々が社会に与えるインパクトはまちに変化を与え、ひとの意識と行動を変え、社会だけでなく世界の情勢をも変える力を秘めています。私は必ず変えることが出来ると強く信じています。だから今こそ、行動を起こすのです。行動を起こすのであれば、如何に行動をするのか。そしてどのような行動が必要であるかを一緒に考えましょう。大丈夫です。私たちは出来ます。必ず出来ます。まちをより良くしたいと考え、覚悟を持って行動するリーダーであるからこそ出来るのです。世のためひとのために尽くすという高い志を胸に、ともに一歩を踏み出しましょう。

まちの当事者であふれる福山

青年会議所は、発展と成長の機会を提供し、まちの課題を解決する当事者を創り出せる組織です。まちをより良くするには、市民一人ひとりが目の前にある課題に対し、当事者として向き合う必要があります。私たちが住み暮らすまちをより良くしたい。心のどこかでそれぞれが感じていることだと思います。より健全な経済活動を行いたい。私たちの子どもや孫の世代、その先の未来に向けより良いまちを残していきたい。ひとそれぞれ思い描く理想のまちの姿はちがえど、まちをより良くしたいという基本的な考え方は同じだと信じています。その思い描くまちの姿にするためには一体何が必要なのでしょう。それは地域の課題を解決し続けることの出来る仕組みと実行する当事者です。現在の福山にはその仕組みと当事者の数は十分と言えるでしょうか。ふとまちに目をむけてみると、福山城築城400年の節目を経て、まちは今生まれ変わろうとしています。その生まれ変わろうとするまちに私たちは課題解決にむけ運動を起こすため日々の活動をおこなっています。福山青年会議所がまちに展開する運動は、今はわずかな変化かもしれませんが、与えたインパクトはまちにとどまらず、地域にそして日本全国へと伝播していきます。まちの課題はまちに住み暮らすひとだけでなく、そのまちに関係する全てのひとが当事者として、解決にむけた行動を起こす必要があるのではないのでしょうか。2022年、第41回全国城下町シンポジウム福山大会を主管しましたが、これを一過性のイベントに終わらせてはなりません。持続可能なまちを実現するには今、行動を起こさなければいけません。まちをより良くするため運動を展開する私たちは、常に未来の姿をまちへ示し続け、持続可能なまちの実現のため、運動を加速させていきたいと思います。福山がまちの課題を解

決する当事者であふれるとき。それは、明るい豊かな社会の実現の一步となるのです。

次代を担う人財の育成

私には小学4年生になる息子がいます。その息子との何気ない会話の中で違和感を覚えることがあります。それは学校での出来事や行事の話の時です。「本当は」「らしい」という言葉を口にします。これはコロナ禍の影響によりこれまで当たり前に行ってきた行事が中止、形を変えて実施することの影響が多分にあります。多くの子どもは本来得ることの出来るはずの原体験をすることなく成長をしています。またそれは青年にも言えることです。この重大な機会の損失を、私は重く受け止めています。これまで諸先輩方が行われてきた運動により、青少年や子どもたちに対し、多くの発展と成長の機会を提供してまいりました。この運動が展開されてきた背景には子どもたちこそが未来を担う人財であるというものがあります。これまでの青少年育成事業や学校訪問の中で築いてきた行政や学校関係者、まちの人々との関係は、諸先輩方が私たちメンバーに残してくれた財産です。本年、福山青年会議所は青年会議所だからこそ出来るネットワークを最大限に活用し、次代のまちを担う人財育成に挑戦していきます。福山青年会議所から影響を受けた人財が、住み暮らすまちのリーダーとなる。その姿を見据え、行動に移しましょう。

福山市は2022年46万人の人口が、2040年には44万人まで減少することが予測されており、同時に少子化問題も顕著に浮き彫りとなっております。出生者数も2016年以降4千人を下回る状況が続いております。しかし、逆に考えると出生者数は減少傾向にあるものの、福山の地へ新たな命が誕生しているということも事実です。市民が福山で安心して子育てが出来る環境の整備は急務です。コロナ禍において、テレワークが浸透したことにより、地方への関心が高まっています。私たち福山青年会議所はこの状況を大きな機会と捉え行動する必要があります。子育てしやすい社会づくりに向けた福山における諸課題を把握し、課題解決にむけた運動を展開してまいりましょう。

市民の笑顔を生み出すJaycee

何もわからない私に手を差し伸べて下さったアカデミー委員会の皆様。何も志を持たずただやみくもに走る私に多くの機会を与え続けてくださる諸先輩方。今、福山に知り合いも居なかった私には多くの仲間がいます。福山青年会議所との出会いが私の運命を大きく動かすきっかけとなりました。青年会議所は、何も持たない青年経済人に対して多くの財産を与えてくれました。私はこの全ての出会いと、諸先輩方、そして仲間たちの愛に感謝をしています。青年会議所は、まちのためひとのため、そして組織のため運動を起こし、発展と成長をし続けることの出来る、唯一無二の組織です。その発展と成長の機会を、一人でも多くの青年に得て欲しいと心から願っています。時代の変化のなかで、組織は柔軟に変化をすることが求められます。しかし、その変化の中でも決して変わらないものがあります。まちをより良くすることです。一人でも多くの青年に、発展と成長の機会を提供し、多くの時間をともに過ごした仲間が出来る。リーダーを生み出し続けることは、まちをより良くすることにつながります。まちがより良くなれば、自然と市民の笑顔があふれるまちへと変化をしていきます。そのために私たちは発展と成長の機会を市民へ提供しなければなりません。私たち福山青年会議所は、大切なひとの笑顔を守るため、大好きなまちの未来を創るため、多くの青年に発展と成長の機会を提供し続けてまいります。また、その機会に挑戦することを決断した新たな仲間に対し、多くの発展と成長の機会を提供しなければなりません。ただ仲間が増えれば良いのではなく、その仲間がどのような活動を行ってほしいのか、どのような人財になってほしいのかバックキャストの思考をもち、組織全体で共有し盛り上げていく必要があります。福山青年会議所の門を叩く挑戦を決意したその決断に私たちは敬意を払い、向き合わなければなりません。全員が当事者です。会員の拡大は当たり前ですが、育成にも全員で取り組んでまいりましょう。

絆を深める仕組みの創造

一度育まれた絆は多少のことでは切られることのない、一生の財産であると考えます。だからこそ、絆を育むためにはお互いの価値観を理解し、お互いを受け入れ尊重しあえる環境が必要です。社会の変化に対し、組織の和を揺るぎないものとするためにもメンバー同士が絆を育み、心をつつにしなければなりません。青年会議所の活動は、そんな絆を育み、個人が発展と成長するために適した環境にあると考えます。持続可能な社会の実現という大きな目的のため、単年度制という青年会議所のもつ特異性を生かし、多くの時間をともにし、ともに議論を重ね、ともに行動に移す過程の中で自然と信頼関係が生まれ、絆は育まれていきます。ただ、ともに過ごす時間の中で時にはお互いが笑顔で語らい、息抜きをする時間も大切になってきます。この緊張と緩和こそが青年会議所の醍醐味の一つであり、ともに過ごす時間の中でお互いを尊重し、理解することが出来るのではないのでしょうか。またお互いを理解するという事は、普段の青年会議所活動を支えてくれるパートナーや家族、社員の方々にも言えることだと思います。私たちは何のために日々の活動を行っているのか、何故、まちのため運動を起こしているのかを知ってもらう機会は必要です。まずは自分自身の周りを巻き込んでいくことが出来なければ、まちや市民を巻き込んだまちをより良くするための仕組みの構築は出来ません。日々の感謝を伝え、青年会議所活動をより有意義なものにし

ていきましょう。

絆は、横の繋がりだけでなく上下の繋がりの中でも育むことができます。特別会員の皆様の存在は、現役のメンバーに対し、安心感や勇気や知恵だけでなく、適度な緊張感も与えていただけます。この青年会議所で得た縦の絆を更に強固なものにし、持続可能な組織にしていきたいと思います。

まちとの懸け橋となる広報

私たちの運動は、決して自己満足で終わってはなりません。私たちの運動とは、まちをより良くするため社会の課題を解決し、持続可能な地域を創っていく仕組みとしてまちへ伝播していくものです。どんなに議案を綺麗に書いて、ミスなく事業を実施したとしても運動になっていなければ全く意味がありません。私たちの運動とは、まちや市民に共有され、共感を生み出し、協働につながることで、初めてまちをより良くする装置となります。まちをより良くするための装置として機能しない事業は、どこまでいっても私たちの自己満足で終わってしまい、時間とお金をかけたただの「JCごっこ」に過ぎないのです。ではどのように共感を得ていくのか。その鍵は広報の仕組みにあります。スマートフォンなどの携帯端末の普及、様々な情報発信ツールの発達により誰でもいつでも情報の発信と受信が出来る世の中です。便利な反面、こちらから発信された情報が一部のみ切り取られ独り歩きをし、限られたひとにだけ有利な情報が流れている側面もあります。情報の発信の仕方によっては、いくら良い運動を起こしても真逆の評価を受ける可能性があるということです。私たちの広報は常に一次情報を発信し続け、本質を市民の心に届き続ける装置となる必要があります。私たちの情報はまず選択されなければ、市民の目に届くことはありません。人間の意思決定をつかさどる脳は、好きか嫌いかで最後は意思決定をするそうです。皆さんの時間と労力を存分に使い起こす運動です。一人でも多くのファンを増やし、情報を受け取ってもらい、共感を得てまいりましょう。持続可能なまちの実現のため、私たちが展開する運動を、まちと福山青年会議所を繋ぐ架け橋へと昇華させ、まちとともに歩んでまいりましょう。

学びを得られる環境の構築

他LOMの方から「出向者への支援が勉強になる」「福山青年会議所のおもてなしは凄いいね」と言っていたことがあります。この言葉に素直に嬉しく思うと同時に疑問も生まれました。福山青年会議所の名前がここまで全国に広まっているのは何故なのか。おもてなしとは何なのか。JC活動を本気でやっているひとほど、福山青年会議所の名前を聞くととても大きな期待を抱いていただくことがあります。このことは、現役メンバーの頑張りは何れも勿論ですが、私たちの諸先輩方が築いてこられた歴史が理由であることは明白であり、決して忘れてはなりません。諸先輩方のまちや私たち後輩のために、時間と労力を割いて行動に移されたからこそ、今があります。(一社)福山青年会議所の歴史は、諸先輩方の軌跡であると言っても過言ではありません。今一度、福山青年会議所が積み重ねてきた歴史に敬意を払い、過去を学び、今を考えましょう。この過程において、未来に向けた道筋が見えてきます。本年は広島ブロックに会長を輩出するほか、全国城下町青年会議所連絡協議会の会長を(一社)福山青年会議所の歴史において初めて輩出します。また多くのメンバーが自身の成長のため、組織のため、まちのため各々の志を胸に出向することのご決断をされました。役職に限らず、その一つ一つの決断に心からの敬意を表します。出向者が出向先で得て来る学びは、まち、ひと、組織の全てにおいて第一情報であり、その時々最先端の情報や手法です。如何に出向者が学びを得て、その学びを如何にLOMに還元出来るのかが、これからの福山青年会議所の成長の鍵を握っています。組織としてその場に漂い、安定を求めるのか、新たな刺激を求め、変化を受け入れるのか。私の所属する組織は後者であって欲しいと心から願っており、常に挑戦することを忘れない組織であって欲しいと思います。メンバーそれぞれが、多くの出会いと学びを求めて行動を起こせる組織として成長をしていきましょう。おもてなしとは、平安・室町時代の茶道から生まれた、大切なひとを尊重した気遣い、心配りをする日本特有の文化であります。決して対外のひとに対するものだけではなく、大丈夫です。私たちには、諸先輩方が築いてこられたJCI福山のおもてなしの心の礎があります。この心を忘れることなく、ともに未来へとまいりましょう。

歴史を紡ぐ組織運営

青年会議所メンバーが、一堂に会し、組織として目指すべき運動の方向性を共有し、お互いの親睦を図り、活動の根源となる月初めに行う月一度の例会。このように重要な機会の場であるからこそメンバーは参加をしなければならないのです。だからこそ、例会に臨むための準備、当日の設営は、なんでも無いような当たり前の事を徹底的にこなしていかなければならないのです。このように、入念な準備、設営がされる例会だからこそ、メンバーも同様に、ただ参加するだけでなく、その限られた時間の中で一つでも学びを得るために積極的な姿勢でのぞんで欲しいのです。諸先輩方の積上げてこられた当たり前に、今の時代だから出来る新たな当たり前を加え、未来へとつながる運営をおこないましょう。

青年会議所の運動の根幹は諸会議にあります。何故か。それは私たちが起こす運動、諸事業は

各諸会議により生み出されるからに他なりません。このことは、青年会議所が設立された当初から脈々と受け継がれてきた伝統であり、まさに青年会議所の歴史とも言えます。お互いの本気と本気がぶつかり合い、本質を迫るため重ねる議論。そこから生み出された事業から起こる運動だからこそ、まちや、市民から共感を得て、持続可能な社会を実現する仕組みとなっていく。運動を生み出し続けるための会議。私たちだけでなくまちのため、市民のため運動の効果が最大化する手法を用いて議論を重ねてまいりましょう。

未来に向けた機会の創造

福山青年会議所には何故このように多くの成長の機会が溢れているのでしょうか。過去があるからこそ今があるのです。これまでの歴史を振り返ると、2000年全国大会の主管、2013年国際アカデミーinFukuyamaの開催地LOMとして日本に留まらず世界のネットワークを活用した発展と成長の機会の提供を続けてまいりました。2022年は全国城下町シンポジウムを主管し、まちと市民に対し、大きなインパクトを与えることが出来ました。築城400年の節目に城下町としての視点からまちを考えるきっかけを与え、その解決に向けた姿を示すことが出来たと確信しております。各種大会、各種会議は、まちと市民のみに限らず、私たちメンバーにも大きな発展と成長の機会となり、まちとともに成長することが出来ました。このように、まちや市民の未来の姿を思い描き、議論を重ね、実際に行動されたからこそ今があるのです。私たちも未来を思い、議論を重ねてみませんか。明確なゴールを示すことで、持続可能な社会の実現に向けた推進力は増していきます。私たちも過去にない、未来に思いを巡らせて、議論を重ね行動をしましょう。

心をつなげる仕組み

2022年5月、コロナ禍で疲弊した福山に多くの笑顔が溢れる出来事がありました。まちですれ違う人々は老若男女関係なく、心の底からの笑顔でした。3年ぶりとなるばら祭の現地開催。どのような状況下におかれても、挑戦を諦めることなく、行動を起こし、歴史を紡いだからこそ実現が出来ました。まつりには、市民の心をつなげることの出来るエネルギーがあります。そのエネルギーこそが、まちをより良くする一番の源となります。そしてまつりこそが、市民が参加出来る最大のまちづくりの仕組みなのです。JCI福山では、福山祭企画実行委員長を毎年輩出し、行政、企業、市民とともに地域の発展に大きく関わってきました。私たちが持つ、ネットワークを駆使し、多くのひとや組織をつなぐことで、まちの魅力を発信する仕組みを創出してまいりましょう。まつりづくりはまちづくりである。まつりを通じ、笑顔となった市民は、また参加したいと思うでしょう。その思いが多くなれば多くなるほど、持続可能な社会の実現に向けた大きな力となるのです。市民の心に届き、まちを想う心が溢れるまつりを全員で創り上げていきましょう。

おわりに

歴史や伝統は、私たちが誇ることの出来る財産です。この財産は、私たちの未来を照らしてくれます。先人たちから託された未来へ向けたバトンを受け取った私たちは次の世代へと引き渡す使命があります。過去があるから今があり、今があるから未来があるのです。過去の声を受け止め、学ばずからこそ、新たな仕組みを生み出すことが出来ます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響、ロシアによるウクライナへの侵攻と国内のみならず、国際情勢が不安定となり、多くの笑顔が失われています。そのような状況において、私たち青年に出来ることは何だろうか。青年だからこそ出来ることは何だろうか。私たちは如何なる状況においても立ち止まる事は出来ません。それは、まちを思い、未来を考え行動を起こせるリーダーだからです。行動を起こせるリーダーであれば、まちや市民からなくてはならないひととして活躍することが必ず出来ます。

どのようなまちに暮らしたいですか。

どのようなまちを子や孫、その次の世代に残していきたいですか。

どのようなひとになっていきたいですか。

どのような組織で活動がしたいですか。

私は、笑顔が溢れるまちに暮らしたい。

私は、誰もが挑戦を続け、活力に満ち溢れるまちを未来へとつなげていきたい。

私は、未来のため、まちのため、市民のため、なくてはならないひとになりたい。

私は、お互いが尊重しあい、まちや市民から求められる組織で活動していきたい。

ともに過去を学び、未来に思いをはせ、持続可能な社会実現のためとなる仕組みを創り、次代を担う人材へ伝えていきましょう。未来を生きる子どもたちのため、今を生きる私たちが諦めるわけにはいきません。

なくてはならない存在になるため、今こそともに行動を起こしてまいりましょう。